

創発 Mail Magazine

創発は“インキュベーション”のプロ集団。～問題解決のための新しい戦略・進化～

当メールマガジンは、日本総研/創発戦略センターの研究者と名刺交換させていただいた方に配信させていただいています。>> [登録解除はこちら](#)

当メールマガジンは、HTML形式で配信させていただいております。うまく表示されない方は>> [こちらからご覧ください](#)

| 日本総研/創発戦略センター | 研究者紹介 | セミナー・イベント | 書籍 | 掲載情報 |



副理事長
湯元健治

YUMOTO Message

... from 理事 湯元健治

中国構造改革の成否をどうみるか

中国経済の先行きを巡って市場では不透明感がくすぶっている。本年1～3月期の実質GDP成長率は、7.4%と昨年10～12月期の7.7%から増勢が鈍化した。4月に入っても、鉱工業生産、固定資産投資、社会消費品小売総額など主要景気指標の伸び率鈍化が続いており、4～6月期は一段の下振れリスクがある。さらに、輸出の伸び悩み、住宅販売の減少、一部都市での住宅価格下落など懸念材料には事欠かない。

こうした中で、習近平政権は、景気下振れに配慮しつつも、構造改革路線を堅持する旨を強調してきた。昨年11月に開催された三中全会では、「市場メカニズムの導入促進」をテコとする構造改革推進の方針が決定されたが、その内容は国有企業改革、一人っ子政策の緩和、戸籍制度改革による都市化推進、資源・エネルギー・交通・通信分野の価格統制緩和、土地制度改革、財政・税制改革、金融自由化、地方債発行許可など多岐にわたる。いずれも中国が持続的な成長を遂げる上で避けて通れない重要な改革だ。

こうした改革の成否をどうみるべきか。また、改革のプロセスで必然的に生じ得る経済成長率の下振れに当局はうまく対応できるのか。市場が漠然と抱く不安は、まさにこの点にある。中国が抱える構造的課題は、(1) 投資主導型成長から消費主導型成長への転換、(2) 汚職・腐敗の撲滅、所得格差の是正、(3) 不動産バブル崩壊の回避、(4) 影の銀行(シャドーバンキング)の是正など、いずれも難題ばかりだ。

さらに、中国はすでに労働力人口の減少に直面しており、賃金の持続的上昇が国際競争力の低下やインフレにつながるリスクを抱えている。7%台前半の成長率でも、失業問題が悪化していない事実は、すでに潜在成長率が7%近辺あるいは7%を下回るレベルにまで低下している可能性を示唆している。

筆者が最近北京で複数の政策当局者と意見交換した際、彼らは現在の成長ペースが「合理的な領域」にあると述べた。潜在成長率低下の懸念に対しては、以下のような理由から、今後10～15年間は7%以上の成長が可能だと自信を示した。中国の経済成長の原動力は、第1に、都市化の進展だ。中国の一人当たりGDPは日本の1960年代、韓国の1980年代の水準に止まっており、地域間の所得格差が大きい。これを埋めるべく、沿海部から内陸部への産業移転が続き、いわゆる雁行型経済発展が続くとみる。

第2に、ITの進歩によるイノベーションが成長の源泉となる。毎年、600万人もの

大卒人材が社会に輩出され、創業・企業が活発化するという。第 1 は、去 1 年間の社会インフラ投資が経済活性化のプラットフォームとなり、流通・飲食・レジャーなどサービス産業化が進むことだ。例えば、1500キロメートルの範囲内で高速鉄道が敷かれ、これが日帰り圏内になることで新たなサービス産業が生み出される。その促進策として、(1) 営業税から増値税への転換を進める、(2) 医療サービスなど民営企業の参入規制を緩和し、新規参入を促すといった方策を模索し始めた。

当局は、雇用に大きな問題がなければ、低めの成長率を許容できるとみている。第1四半期の雇用者数の増加は340万人となり、年間目標の1000万人が十分射程圏内に入っている。リスクは輸出の伸び悩みと不動産価格の下落だが、輸出は元安調整で乗り切る構えだ。他方、不動産価格下落に対しては、日本のバブル崩壊の経験を相当研究した結果、不動産価格の安定化を政府のマクロコントロールの目標と明確に位置付け、マーケットが不安視する大幅な下落は許容しない。いざとなれば、不動産購入規制の緩和も機動的に実施することも辞さないという。

こうした政府当局の見解に対して、中国の民間エコノミストやシンクタンクは、政府の改革姿勢の強まりを評価しつつも、改革の程度やスピードについては慎重な見方を崩さない。例えば、土地制度改革は農民の住宅地を団地などに移転・交換するもので試験的なものに過ぎない。現政権は改革断行の方針を表明したが、明確な手法は示していないと。これまで、農地は地方政府による収容の手続きを踏まないと都市用地に転換できず、農民は低額の補償金に甘んじるしかなかった。これを改革することは、格差問題の是正につながる。しかし、具体策はこれからだ。

多くの識者は、「国進民退」に歯止めをかけ、民営企業の育成を目的とした国有企業改革も、抵抗勢力の力が強く、抜本的な改革が進むかどうかは不透明だとみる。中国当局は、(1) シノペックなど石油関連国有企業が運営するガソリンスタンドなど川下分野に民間資本を導入、(2) 本業とは異なる副業を行っている国有企業に副業部分を民間売却させる、(3) 中国最大の国有投資会社である中信集団を香港に上場させ、コーポレート・ガバナンスの改善を図るなど様々な改革を試みているが、抜本改革には程遠く、部分的な改革に止まっていると指摘する。

シャドーバンキングと表裏一体の関係にある過剰投資問題や地方債務問題の解決策として、地方債発行が認められたことは評価しつつも、現時点では、省レベルで認可されただけであり、元々債務比率が70%以上と高い県や市レベルではまだ認められていない。また、地方の財源問題の克服策として、固定資産税の強化や資源税の導入が議論されているが、未だ試験的なものに過ぎない。中央と地方の財政責任を明確化し、社会保障財源などを中央からの財政移転でカバーする抜本改革の姿はまだ見えない。

さらに、地方の融資プラットフォームが発行する城投債には暗黙の政府保証があるが、正常な地方債マーケットを作るには、これを壊さなければならない。そのコストは甚大だ。シャドーバンキングの債務負担も大きい。2014年、15年は借り換えの規模が大きく、その解決策は、(1) ロールオーバーか、(2) 債務と債務の交換、すなわちコストの低い城投債を発行し、シャドーバンキングに返済するか、いずれかしかない。本質的問題はシャドーバンキングそのものではなく、短期調達・長期運用の深刻なミスマッチ構造の下で、地方政府がキャッシュフロー危機にあることだ。

当局は、過剰投資構造の是正に向けて、鉄鋼、セメント、船舶、板ガラス、アルミの5業種で2017年までに生産過剰を解消すべく、工場爆破など強烈的な行政指導を行っている。ただし、その標的となった河北省では経済成長率が9%台から4%台に急減速し、構造改革のダメージを被った。失業率が上昇し、財政収入も伸びが大きく鈍化、改革は失敗だったと囁かれる。重厚長大型産業への依存度を低下させることは、経済成長をどうするのかというジレンマと常に背中合わせだ。

中国はもっと構造改革のスピードを上げなければならない。しかし、それでも漸進主義的改革を取らざるを得ないのは何故か。それは、(1) 共産党幹部が牛耳る抵抗勢力の阻害力がとてつもなく強い、(2) 習近平、李国強政権といえども、政

治体制の改革はアンタッチャブルである、(3) 改革推進と経済成長・雇用のバランスを取る必要があるためだ。中期的に人口オーナス期に入った中国が様々な矛盾を克服し、構造改革と安定成長の両立を図ることができるかは、なお未知数と言わざるを得ない。

■ 書籍 [各書籍情報はこちら](#)

「スウェーデン・パラドックス 高福祉・高競争力経済の真実」(日本経済新聞出版社)
「税制改革のグランドデザイン」(生産性出版)
「税制・社会保障の基本構想」(日本評論社)
「図解 外形標準課税」(東洋経済新報社)
「図解 金融を読む辞典」(東洋経済新報社)



創発戦略センター
マネジャー
[小崎 亜依子](#)

創発eyes

・・・ 研究員による創発最前線

公共調達で女性の就労促進を

女性の活躍支援は、安部内閣の成長戦略の柱の1つとなっている。足下では、女性活躍支援促進に向けて様々な施策が検討されており、国等の公共調達で女性活躍企業を有利に評価することなどが検討事項に挙がっている。

公共調達を活用した女性活躍支援は、地方自治体が先行している。例えば、男女共同参画等の項目を調達時に考慮している都道府県は、公共工事で³²、物品の購入で¹²に上る。男女共同参画等の項目とは、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を策定し、労働局に届出している場合や、独自の男女共同参画やワーク・ライフ・バランスの企業認証制度に基づく認証、登録を受けている場合などを有利に評価しようというものだ。いずれも、発注先である組織の取り組みを考慮する手法である。

こうした手法は、既に女性の活躍に積極的に取り組む組織へのインセンティブを付与するという点では、有効であろう。しかしながら、日本の女性活躍支援における最大の課題であるM字カーブ(※1)の解消に対しては、直接的な解決策となり得るわけではない。当該調達が、長期間働いていなかった女性・育児中の女性の新規雇用を創出するわけではないからである。

足下で検討されている国等の公共調達の活用では、発注先組織の取り組みだけでなく、女性の雇用創出を調達要件の1つとするような手法を提案したい。

特定層の雇用を公共調達の要件とする手法は、既に諸外国に存在する。女性の雇用創出分野ではないものの、イギリスのある自治体では、地元の学校に牛乳を提供するサプライヤーの選定の際に、長年無職だった人の雇用を積極的に行うことのできるサプライヤーを選定している。また、河川の管理事業者の選定においては、犯罪に加担したことのある若年層の雇用および教育機会を提供できる事業者をサプライヤーとして選定した事例もある。こうした手法は、牛乳の提供や河川の管理といった目的だけでなく、特定層の雇用・教育機会の提供をも実現することが可能であることから、政策的な効果は大きいといえる。

日本の公共調達において、長期間働いていなかった女性・育児中の女性に雇用機会の提供、教育機会の提供の実施を調達要件とすれば、M字カーブ解消に貢献する可能性があるだろう。わが国の政府最終消費支出は、国民総生産の約2割を占めており、その調達時に考慮される項目の持つ影響は大きい。女性の活躍を支援している企業へのインセンティブ付与としてだけでなく、新たな雇用機会や教育機会の提供の手段として、公共調達を活用してはどうだろうか。

※1 日本女性の労働力率は、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落

ち着いた時期に再び上昇する。そのため、年代別の労働力率は 字のような形になることから、こうした現象をM字カーブと呼ぶ。M字カーブの底は、大都市およびその周辺ほど深い。



創発戦略センター
コンサルタント
[菅野-文美](#)

研究員エッセイ

ジャズが好きだ。

初めてジャズライブに行ったときの高揚感を今でも手に取るように感じるができる。それは、高校生の春、両親と訪れたニューヨーク現代美術館のカフェテリアで偶然出会った、ロン・カーターのトリオによるチャリティライブだった。最初はステージから離れた席に座って聞いていたが、そのうちに躍動感溢れるビートにじっとしていらなくなり、気付いたらステージの脇で音楽に乗せて踊っていた。両親の席からは、私のベリーショートのスツツツした髪の毛が激しく揺れるのだけが見えたという。ライブ終了後、興奮冷めやらぬ私は、パーカッションистに駆け寄り、感動の気持ちを伝えた。彼は、クールに「You'll come back」とウィンクをしてくれたのを覚えている。

そのパーカッションистの予言通り、やがて私はニューヨークに移り住み、ジャズクラブに通うようになった。たばことお酒の匂いが充満する狭くて雑然とした空間で、ミュージシャンたちが、お互いのプレイや客の掛け声と呼応しながら即興演奏で凌ぎを削る。その場限りのスリリングなクリエイションに強く憧れた。

先日、ジャズピアノの巨匠キース・ジャレットのソロコンサートに初めて行った。それは、ニューヨークのジャズクラブでのライブとは全く異なる体験だった。会場はクラシックコンサートも行われるオーチャード・ホールで、その日は2000人以上の聴衆で満席となった。開演前のアナウンスでは、「携帯電話の電源を切るように」だけでなく、「咳やくしゃみをする場合はハンカチで口を押さえて音を出さないように」とまで注意される。そして開演時刻を10分過ぎ、2000人の聴衆の間にようやく完全な静寂と張り詰めた緊張が訪れたところで、ステージの真ん中に照らし出されたグランドピアノにキースの痩せた姿が現れた。

それからは、プログラムも楽譜もない、完全な即興演奏が始まる。キースは身をもだえ、低いうめき声を出しながら、身を削るようにして音を奏でていく。私はなかなか演奏に集中できずに苦心した。しかし、徐々に頭が空っぽになり、純粹に音だけを受け入れることができた時、そのあまりの美しさに強く心を揺さぶられ、普段は奥の方に閉まっている感情が溢れて出てくるのを感じた。

かつてマイルス・デイビスがキースに、「お前は どうやって何も ない中から演奏するんだい？」と聞いたそう だ。その時、キースは、「そんなの知らないよ。ただやるだけさ」と答えたと言 う。つまり、無からクリエイトする方法を「知っている」と言った途端、それは「無からのクリエイション」ではなくなってしまうというのだ。禅問答のような話だが、キースは、いかなる思考も排除し、五感の感度を極限まで高め、湧いてくるものを表現することで、「無からのクリエイション」に挑戦し続けているのだ。

キース・ジャレットの完全即興を聞き、クリエイトすることの厳しさと凄みを改めて突き付けられた気がする。私は、音楽の才能はないが、新しいコンセプトや新しい領域をクリエイトすることに挑戦し続けたいという思いで現在の仕事に取り組んでいる。できれば、いつかは、キースのように人々の心を揺さぶるような仕事がしたいという野望を持っている。そのためには、彼のように、禅僧のようなストイックさや、2000人の前で大博打を打つ度胸を身につけなければならない

と思うと、気が遠くなりそうになるが、やはり挑戦してみようと思う。

ひょっとして、子育ても似たようなことなのではないかと想像してみる。昔、母の知り合いから、「あなたのお母さんは、あなたや、あなたのお兄さんやお父さんという作品を創った芸術家だったのですよ」と言われたことがある。母は専業主婦だったし、専ら放任主義で、私としては「創られた」覚えは全くなかった。しかし、まさにそこが母の芸術家たるゆえんのようだ。

私たち家族は幸いにして皆好きなことを生業にしている。本人たちは、自力で好きなことを追求していると思っている。しかし、今になって思い返せば、母は、私たちを独立した個として尊重した上で、それぞれの興味や強みを忍耐強く観察し、私たちがそれらを伸び伸びと追及できるよう、そっと環境を整えてくれたことに思い当たる。これもクリエイトするという行為なのだと思う。

私は、7月に迎えるわが子をどこまでクリエイトできるのか、また新たな挑戦を続けたい。

編集後記

衣替えのシーズンがやってきました。

衣替えは平安時代の宮中行事から始まった、古い風習のようです。

近年は急に暑い日があったり、季節を感じられないこともあります。衣替えを通して、日本の季節感を大切に過ごしたいですね。

※記事は執筆者の個人的見解であり、日本総研の公式見解を示すものではありません。

株式会社日本総合研究所 創発戦略センター Mail Magazine (隔週火曜配信)

このメールは創発戦略センターメールマガジンにご登録いただいた方、シンポジウム・セミナーなどにご参加いただきました方、また研究員と名刺交換した方に配信させていただいております。

【発行】 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター

【編集】 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター編集部

〒141-0022 東京都品川区東五反田2-18-1

TEL：03-6833-6400 FAX：03-6833-9479

<配信中止・配信先変更・配信形式変更>

<http://www.jri.co.jp/company/business/incubation/mailmagazine/>